



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 239
February
2013

トピックス

メンバー国との防災協力推進

アジア防災会議2013の開催

ADRC客員研究員レポート

¶ アレサ・アフマダ・ノグラ (フィリピン)

¶ ドウニ・チャンド・ラナ (インド)

お知らせ

ADRC公式Facebookページの開設

Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.asia
<http://www.adrc.asia>

© ADRC 2013

●メンバー国との防災協力推進 アジア防災会議2013の開催

アジア防災センター (ADRC) は、2013年1月23日神戸市にて、日本国政府及び国連国際防災戦略事務局 (UNISDR) との共催により、今年度のメンバー国会議としてアジア防災会議 (ACDR) 2013を開催しました。

会議にはメンバー国及びオブザーバー国から25カ国政府、また国連・国際機関、地域機関、研究機関、援助機関、関連機関から、計15組織、83名の防災専門家の参加がありました。

会議の開会式では、内閣府亀岡偉民大臣政務官、ADRC伊藤滋センター長、UNISDR国連世界防災白書 (GAR) コーディネーター、アンドリュース・マスケレイ氏により開会挨拶が行われました。

ACDR2013で取り上げられた議題は以下のとおりです。

1. 減災のための宇宙技術の利用
2. 民間企業の防災への取り組み
3. 世界での防災の取り組み及びポスト兵庫行動枠組 (HFA)

最初に、減災のための宇宙技術の利用に関するセッションでは、宇宙機関 (JAXA)、研究機関 (筑波大学、アジア工科大学、メンバー国 (タジキスタン、キルギス共和国)、ADRCから優良事例が紹介され、今後の活動計画について幅広い議論が行われました。

続いて二つ目のテーマである民間企業の防災への取り組みのセッションでは、民間、研究機関 (京都大学)、地域機関 (APEC、アジア災害予防センター (ADPC)、ADRC) が発表を行い、民間部門の防災における役割、近年の取り組みについて共有されました。

最後のセッションでは、世界での防災の取り組み及びポスト兵庫行動枠組 (HFA) をテーマとして、2012年に実施された第5回アジア防災閣僚会合及び国連世界防災白書2011について概観し、ポストHFAに向けた論点が確認されました。

閉会式では、内閣府四日市正俊参事官より閉会挨拶が述べられ、会議は成功裡に終了しました。会議に参加された発表者、参加者の皆様にはここに改めてお礼申し上げます。

会議の詳細につきましては、下記のウェブサイトをご覧ください。

http://www.adrc.asia/acdr/2013_index_j.html



●ADRC客員研究員レポート**アレサ・アフマダ・ノグラ (フィリピン)**

はじめまして。私はフィリピンから来ましたアレサ・アフマダ・ノグラと申します。国防省(DND)・民間防衛室(OCD)の職員です。

OCDは、フィリピンにおける国家防災協議会(NDRRMC)の業務実施機関及び事務局としての機能をもっています。OCDはDNDの管轄下でDNDの長官はNDRRMCの議長も兼任しています。OCDは、総合的な国家防衛及び国家レベルでの防災プログラムを実施し管理することを責務とし、2020年までに防災の中核的拠点となることを目指しています。

私の勤めるOCDの地域センターVIは、6つの州と2つの高度都市化市、117の町、16の市を管轄しています。管轄地域には、フィリピンにある大小7107の島々のうちパナイ、ギマラス、ボラカイ、ネグロス(の一部)といった主要な4つの島が含まれています。

現在、私はOCD地域センターVIのトレーニング担当主任として働いています。そこでの主な業務は、OCD本部が用意した防災トレーニングの実施に関し、地域防災協議会(LDRRMC)と調整を行うことです。また、西ヴィサヤ地方での防災能力向上及び強化プログラムを実施し、様々な関係者に専門的な支援を行います。

今回、日本において防災を学ぶ機会を頂いたADRCに対しまして、ここに深い感謝を申し上げます。客員研究員として日本に滞在し、人命の保護や財産への被害軽減が日本の生活の一部となっていることを見る事ができました。また、ACDR2013や国際復興フォーラムへの参加を通じて、東日本大震災や巨大災害からの教訓について学ぶ事ができました。さらに、今回客員研究員として参加している他のインド、タイ、インドネシアからの研究員と災害に強い国づくりについて意見交換を行う機会を与えていただいたことに感謝します。

今回の研修で得られる経験が、私たちの子供やまたその子供達の未来のために、より安全で順応性があり、そして強いコミュニティの構築のため、OCDを通じて、ADRCと自国フィリピンに微力ながら貢献できればと思っています。

**ドゥニ・チャンド・ラナ (インド)**

私はインドから来ましたドゥニ・チャンド・ラナと申します。インド北部に位置するヒマーチュラ・プラデシュ州で、行政事務局の局次長として働いています。私は1999年からインド政府職員として、防災に関わる様々な部署で業務を行ってきました。近年では、UNDPと連携した防災プログラムを2009年から2012年まで担当し、多くの防災関係者向けトレーニングを実施し、IEC教材の開発、防災の基本政策や実施手順の整備支援を行ってきました。

インドは、地形及び気候学的な観点から、世界的に見ても自然災害が多発している国のひとつです。アラビア海およびベンガル湾から発生する暴風やヒマラヤ山脈での活発な地殻活動による地震が挙げられます。地震においては、国土の58.7%は中～高い規模の地震が発生しやすい地域となっています。その他にヒマラヤ山脈は比較的新しい地層の山脈であり、絶えず地質的に変化していることから、地滑りが起こりやすくなっています。また、国土の12%が洪水、そして耕作地の68%が干ばつの被害を受けやすく、国の西部にあるタール砂漠、中部のデカン高原は深刻な水不足により繰り返し干ばつが発生しています。そして、津波に対する脅威も増加しています。インドの海岸線の長さは約



続き

7,600kmにもなるため、サイクロンによる影響を頻繁に受けます。インド国内の自然災害による年間損害額はGDPの2~3%にも達し、さらに、毎年多くの貴重な人命も失われています。

近年では、インドにおいて総合的防災対策の制度化に着手されるようになりました。インドにおける既存の緊急対応は、警察、消防、医療、救急車、災害に対してそれぞれの緊急電話番号がありますが、人々は混乱しているのが現状です。また緊急対応には複数の機関が関係し、既存のシステムでは、関係機関間での効果的な連携やサービスの統合ができていません。そのため、多くの無駄を生みだしています。その他にも早期警報の脆弱なコミュニティや対応機関への効果的で効率的な情報伝達システムやネットワークがないなどの問題を抱えています。そのため多くの人命が失われる結果となっています。

今回機会を頂いた、ADRCでの客員研究員プログラムでは、日本における緊急対応の現状と国際的優良事例の研究を行い、インドにおいて上記課題を解決するような、災害時における最適ナリソースの利用や効果的な緊急対応のためのモデルを提案したいと思っています。

日本でのこれまでの滞在期間には、国際会議への参加、コミュニティ防災訓練の見学、阪神・淡路大震災のメモリアル事業への参加等すでに多くの活動に触れることができました。特に過去の災害の記憶の継承や、新しい世代への防災教育への取り組みに感銘を受けています。

最後に、この客員研究員プログラムの機会を頂いたヒマーチュラ・プラデシュ州及びインド政府、そしてADRCに感謝を申し上げます。このプログラムで得た経験や知識をヒマーチュラ・プラデシュ州及び自国の防災に生かしたいと思います。

●お知らせ

ADRC公式Facebookページの開設

この度ADRCは、防災への取り組み及びアジア地域における防災関連情報の更なる発信のため、公式Facebookページ (<https://www.facebook.com/ADRC.KOBE>) を開設いたしました。ご興味のある方はぜひともご覧ください。

問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。